

令和元年度
藤岡市
人・農地プラン
中大塚地域

市町村名	藤岡市	集落／地域名	中大塚地区
当初作成年月日	平成24年10月	分割作成年月日	平成29年 2月
更新年月日（1回目）	平成30年 3月	更新年月日（2回目）	平成31年 3月
更新年月日（3回目）	令和 2年 3月	更新年月日（4回目）	令和 年 月
更新年月日（5回目）	令和 年 月	更新年月日（6回目）	令和 年 月
更新年月日（7回目）	令和 年 月	更新年月日（8回目）	令和 年 月

1. 今後の地域の中心となる経営体（担い手）

No.	個人コード	属性	経営体 (氏名)	経営者等の年齢	構成員数	後継者の有無	現状 [令和元年度]		計画 [令和6年度]		農地中間管理事業利用希望の有無	今後の取組内容	取組年度	今後活用が見込まれる施策等					備考
							経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)	経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)				農業次世代人材投資事業	金利軽減措置	経営体育成支援事業	その他国庫事業	その他県単補助事業	
1	2	4 認農・法人	B 合資会社	44 歳	13 (20) 名	○	麦作	13.87 ha	麦作	114.00 ha	×	5 低コスト化	既	×	○	△	△	△	
2	61	1 認農・個人	B F	41 歳	2 名	×	米麦雑穀 (有機)	3.77 ha	米麦雑穀 (有機)	4.10 ha	○	3 高付加価値化	既	×	○	○	△	○	
3	67	1 認農・個人	B L	66 歳	2 名	×	露地野菜 米麦	3.30 ha	露地野菜 米麦	4.00 ha	○	3 高付加価値化	既	×	○	○	△	○	
4	68	1 認農・個人	B M	61 歳	2 名	×	肉用牛 (肥育)	207.00 頭	肉用牛 (肥育)	300.00 頭	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
5	69	1 認農・個人	B N	78 歳	2 名	×	施設野菜 米麦	0.80 ha	施設野菜 米麦	0.80 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	△	
6	70	1 認農・個人	B O	68 歳	2 名	×	施設野菜	2.06 ha	施設野菜	2.20 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
7	71	1 認農・個人	B P-1	75 歳	2 名	×	施設野菜	1.61 ha	施設野菜	1.70 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
8	72	2 認農・共同	B P-2	70 歳	— 名	×	施設野菜	— ha	施設野菜	— ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
9	73	1 認農・個人	B Q	67 歳	2 名	×	施設野菜 水稻	0.80 ha	施設野菜 水稻	1.00 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	△	
10	76	1 認農・個人	B T	74 歳	2 名	×	施設野菜 水稻	0.73 ha	施設野菜 水稻	0.80 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	△	
11	78	1 認農・個人	B V	69 歳	2 名	×	施設野菜	1.80 ha	施設野菜	2.00 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	△	
12	88	5 認農・農事	C E 農事組合法人	63 歳	34 名	○	麦作	2.30 ha	米麦	10.00 ha	○	4 複合化	34	×	○	○	△	○	
13	132	1 認農・個人	D O-1	72 歳	2 名	○	米麦 露地野菜	12.44 ha	米麦 露地野菜	10.00 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	

No.	個人 コード	属性	経営体 (氏名)	経営 者等 の年 齢	構 成 員 数	後 継 者 の 有 無	現状 〔令和元年度〕		計画 〔令和6年度〕		農 地 中 間 管 理 事 業 利 用 希 望 の 有 無	今後の 取組内容	取 組 年 度	今後活用が見込まれる施策等					備 考
							経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)	経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)				農業次世 代人材投 資事業	金利軽減 措置	経営体育 成支援事 業	その他国 庫事業	その他県 単補助事 業	
14	133	2 認農・共同	D O - 2	70 歳	一 名	○	米麦 露地野菜	— ha	米麦 露地野菜	— ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
15	146	1 認農・個人	D Z - 1	43 歳	2 名	×	露地野菜 水稻	3.70 ha	露地野菜 水稻	4.00 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	○	△	○	
16	147	2 認農・共同	D Z - 2	72 歳	一 名	○	露地野菜 水稻	— ha	露地野菜 水稻	— ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	○	△	○	
17	187	12 事業担い手	F M	34 歳	1 名	×	米麦	1.50 ha	米麦	3.50 ha	○	3 高付加価値化	既	—	×	△	△	△	
18	222	11 育成対象	G T	35 歳	1 名	×	露地野菜 水稻	0.30 ha	露地野菜	0.30 ha	○	1 新規就農	既	×	×	×	×	×	

【記載上の注意】

- ※ 「今後の地域の中心となる経営体」には、規模拡大による経営の効率化、6次産業化による農畜産物の高付加価値化、経営の多角化・複合化、後継者の育成など、地域農業の発展を牽引する経営体や、将来こうした役割を担うであろう新規就農者等を経営体の意向も踏まえた上で記載する。
- ※ 「属性」には、認定農業者は「認農」と記載し、個人・法人の別、共同経営者・後継者の別等を記載。また、農事組合法人は「農事」、集落営農組織は「集営」、認定新規就農者は「認就」、就農後に認定農業者を目指してもらう者を「育成対象」と記載。年齢等により認定農業者の更新を行わなかったが、今後技術の承継を行うであろう者を「目標達成」と記載。
- ※ 「計画」欄は、おおむね5年後の経営内容・経営規模を記載（以下「計画」欄についても同じ）。
- ※ 「今後の取組内容」欄は、経営の維持・発展のために今後取り組もうとする内容を記載。
- ※ 「取組年度」欄は、取組開始年度を記載するが、以前より既に取り組んでいる内容については「既」と記載する。

2. 1 から見た地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている

／

担い手はいるが十分ではない

／

担い手がいない

3. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	
担い手に集積・集約化する	○	目標としては、土地改良事業を実施して、担い手に集積していく地区にしていきたい。 水利が悪く、農道も狭いため、土地改良事業は必須と思われるが、過去、何度も話があったものの、実現していない状況。しかし将来のために事業の実施をしていきたい。 地域では圧倒的に次世代の中心経営体の候補者が少なく、将来的には研修生の受け入れを行って、地域の農業者を増やしていきたい。ただ、調整区域のため住居の確保が難しいため、空住宅等を斡旋するような仕組みがあると良いと思う。
担い手の分散錯圖を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する	○	
耕作放棄地を解消する	○	
その他[右欄に記載]	○	

4. 3 についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	農地中間管理事業の活用の希望はあるが、現実の土地の状況を鑑みると、活用は極めて難しいと思われる。 空いている農地も多くあり、潜在的な貸出希望者はかなりの数いると推測されるが、実際に貸し出したいという話はあまり聞かない。 借りたい農地はあるが貸し付け希望にないという意見もあり、中間管理事業の周知が必要であると考えられる。
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他[右欄に記載]	○	

5. 地域の標準賃料について

美土里地区に関しては基盤整備されていない農地が多く、水不足が発生していることもあり標準賃料に関しては田で5,000円/10a、畑で3,000円/10aくらいが妥当であるとの意見があった。土地改良を含む基盤整備を行い、耕作条件を良くしない限り現在の標準賃料は割に合わないという意見があった。

6. 近い将来、農地の出し手となる者と農地

No.	個人 コード	農地の出し手となる 農業者	地区別	現状 [令和元年度]			貸借対象 農地面積	今後 [令和6年度]	農地中間管理機構への貸付等の有無			備考
				所有農地面積	経営農地面積	貸付済農地面積		経営農地面積		農地面積	貸付 時期	
1	36	A J	美土里	0.18 ha	0.18 ha	0.00 ha	0.17 ha	0.01 ha	○	0.167 ha	随時	
2	123	D S	美土里	0.29 ha	0.29 ha	0.00 ha	0.29 ha	0.00 ha	×	0.2877 ha	すぐに買したい	
3	124	D T	美土里	0.20 ha	0.20 ha	0.00 ha	0.20 ha	0.00 ha	×	0.2035 ha	すぐに買したい	
4	125	D U	美土里	0.58 ha	0.58 ha	0.00 ha	0.58 ha	0.00 ha	×	0.5767 ha	すぐに買したい	
5	126	D V	美土里	0.37 ha	0.37 ha	0.00 ha	0.37 ha	0.00 ha	×	0.3686 ha	すぐに買したい	
6	127	D W	美土里	0.81 ha	0.81 ha	0.00 ha	0.81 ha	0.00 ha	×	0.8068 ha	すぐに買したい	
7	204	G X	美土里	0.08 ha	0.08 ha	0.00 ha	0.08 ha	0.00 ha	○	0.079 ha	随時	
8	208	H B	美土里	0.23 ha	0.23 ha	0.00 ha	0.23 ha	0.00 ha	○	0.2278 ha	随時	

7. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方（地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者も含めて）		
取組事項	対応	コメント
生産品目の明確化	○	砂利採取を行った農地が多く、作付可能な品目が限られている。他の地域のような単純な規模拡大は、農業者とするリスクが高すぎる。その土地で何が育つのかを見極めていかないと、貸借の話は出来ない。 将来的に現状を打破するには、土地改良事業の実施は必須と思われるが、金銭的な問題や減歩により反対する人が多く、実施は難しいと考えられる。 現状では土地の貸借も進む気配はなく、農地中間管理事業を活用しても打開策にはならないような状況が懸念される。農業者同士の情報共有ができる交流会等が開けるとよいのではないか。
複合化		
6次産業化		
高付加価値化	○	
新規就農の促進	○	
その他[]		

8. 今後の地域維持のあり方

道路の状況が極めて悪く、軽トラックや農業用機械の通行が出来ず、現地にたどり着かない農地が増えてしまっている。自らの耕作地に影響の無い様に周辺の草刈り等を行っているが、農業者個人で行うには限度がある。多面的機能支払交付金事業などの協議会の設立・活用を通じて、地域の小規模農業者や所有者を巻き込んでの地域環境の維持を図っていく必要がある。

地域の問題として、区長や所有者を交えた座談会を行う必要がある。

※ 今後、農地を含め地域の維持をおこなうため、地域の話し合いにより判明した問題点・地域維持のあり方をまとめる。